

Introduction:

モスバーガーの特徴である、シャキシャキレタス、大ぶりのトマト、玉ねぎの存在感があるソース。おいしさを支える大きな柱のひとつに、野菜があります。いつでもおいしい野菜を仕入れられるように。今よりさらにおいしい野菜にしていけるように。絶え間なく続くモスフードサービスの努力に、イーサポートリンクの『農場物語』も力を添えています。農場物語で可能になったモスのおいしさやこれからもっと期待できるモスのおいしさについて、より深く教えてもらいました。

シャキシャキレタスは、
データのできている。

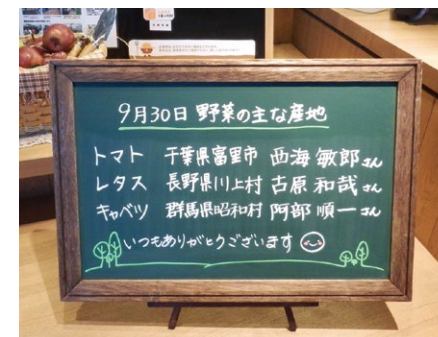


アグリ事業グループ グループリーダー 中山卓三氏

全国2,900件の生産者をつなぐ。

国内に1,300以上ある、モスバーガーの店舗。私たちのお店では、それぞれの「店舗でつくる」おいしさにこだわりを持っています。たとえば、ソース類はそれぞれのお店での調理を行っていますし、野菜もお店で一つひとつカットしています。いくつもある私たちのこだわりの中で、もっとも力を入れているのが、野菜です。シャキシャキのレタスに、食べごたえのあるトマト。各店舗では毎日、野菜をどこから仕入れているかを小さな立て看板でお知らせしているのを目にしたことがある方もいらっしゃるかもしれません。いつでも最高においしい野菜を提供できるよう、私たちは全国数多くの契約生産者から野菜の仕入れを行っているのです。その数、なんと全国120ヶ所の産地、生産者の数にして2,900件です。

手軽に食べられるファストフードのハンバーガーではありますが、こんなにたくさんの方の協力の上に成り立っています。



店頭に置かれている日々の野菜の情報が書かれた黒板。『農場物語』が役買っています。※

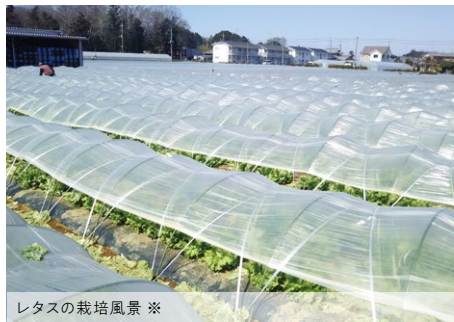


広大なレタス畑 ※

使うのは生産者、という徹底した姿勢。

イーサポートリンクの『農場物語』を利用しようと考えたきっかけは、2,900件ある生産者のマネジメントが煩雑になってしまう課題を解決しようとしたことからでした。最初は、使用している農薬の管理です。農薬の種類を把握したり、農薬の使用期限をお知らせしたり、手作業でなくシステム上で作業を完結させたいと考えたのです。安全で安心な野菜を生活者に食べてもらうためには欠かせない部分ですので、パートナーに選ぶなら、確実に信頼できる企業がいいと考えていました。イーサポートリンクに対し、信頼できると考えた点は、徹底的に生産者に寄り添う姿勢です。どれだけ私たちモスフードサービスに利益が出る想定でも、私たちが楽になるサービスでも、それだけだったら意味がな

いということを、イーサポートリンクは知っていました。システムを使用するのは、私たち以上に、生産者の皆さんです。普段はパソコンの作業もほとんどしないような人達がいやすいシステムでなければ、まったく機能しないのだとわかった上で、システムをどのように活かしていくかを考えてくれたことが非常に印象的で、信頼できると感じました。イーサポートリンクの営業担当者は、その分大変な苦勞をしてくれたみたいですが、生産者の皆さんへ直接会いに行って、システムの使い方を丁寧にレクチャーしてくれました。膨大なコストが掛かっていたと思います。それでも、生産者の方がシステムを使いやすいように、尽力してくれました。一大プロジェクトだったと思います。



レタスの栽培風景 ※



収穫したばかりの新鮮なレタス ※



大切に栽培されているトマト ※



熟度が増し、赤くなったトマトは出荷間近 ※

※写真はモスフードサービス社より提供

気づかないおいしさにこそ、 こだわりたい。

現在は農場物語のほかに、『SOW』という名の新たなシステムを構築しようと新規のプロジェクトが動き始めています。SOWは、ビッグデータを基に出荷予測を行うシステムです。産地や気温、日照量などの情報から、野菜の成長を管理するものです。どの地域のどの野菜が、いつ、どれくらい出荷できるのかを、算出できるようになると期待しています。SOWが実現すると、誰もがハッピーになります。生産者は計画的に製品を出荷できるようになるため業務の負担が減りますし、私たちはより安定的な供給が可能です。それにより、絶えることなくいつでも同じ商品を生活者の皆さんに提供できるようになるのです。このシステムは、のちには出荷予測だけでなく、よりおいしい野菜をつくるために活かしていけるだろうと私たちは考えています。私たちにとっての理想とするレタスやトマトが育った環境は、どんなものであったか。肥料は？日照時間は？気温は？様々な生育環境をデータとして分析し、その結果次第でまた次の生育環境を調整して

みるという試みを行っているのです。このシステムがあれば、供給も、おいしさも、安定するものになっていくはずですが。まさに、“もの”と“システム”をつなげることで、よりよい商品を実現していけるのだと感じています。私たちのようなファストフード店での食事で、「あ！野菜がおいしい！」って、わざわざ感じてもらえることって、正直少ないと思います。しかし、だからこそ、きちんとこだわってきたいのです。モスバーガーの食べ物をおいしくするのは、こういった見えない力なのだと信じ、誇りをもって仕事をしたいです。



アグリ事業グループの中山氏と飯草氏